

内科学実習

Training of Internal Medicine

キーワード

- ① 全身管理医歯学
- ② 内科
- ③ 内科臨床研究
- ④ 内分泌病理学
- ⑤ 遺伝子変異と内分泌疾患

授業概要

本実習では、内科外来および臨床検査室で患者の診察および各種臨床検査を実際に行いながら、カンファレンスにて討論をする。また、必要に応じて医師の指示の下、内科外来で診察、治療計画立案、処方を行う。それにより内科疾患を合併した歯科患者の歯科治療を安全に施行できるとともに医師のみでなく看護師、薬剤師、臨床検査技師と密接な連携をはかり医療安全を確保できるようになることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

内科学は、患者との医療面接と観察から始まり、それを体系的に把握、分析し、病態生理および病因を明らかにし、的確な診断と治療を行う学問である。内科学実習では内科学臨床研究を通して内科学の基本と臨床研究を行うにあたっての医療倫理を理解し、内分泌病理学、遺伝子変異と内分泌疾患の研究を通して内科学全体を理解することを目標とする。

授業計画

- ① 内科外来で患者の診療を実際に行う。また、必要に応じて医師の指示の下、患者の診察、治療計画立案、処方を行い、基本的な内科の診断、治療の技法および、内科診療に必要な医療倫理、医療安全を教授する。24コマ
- ② 内科学臨床研究計画立案実習
内科外来での実習で修得した基本的な内科の診断、治療の技法、医療安全、医療倫理を用いて、実際の臨床での問題発見能力を育成すると同時に発見した臨床上の問題を解決するために臨床研究計画の立案の基本と医療倫理を教授する。12コマ
- ③ 内分泌病理学基礎実習
内分泌疾患の多くは内分泌腺に発生した腫瘍が原因となる。腫瘍の研究には病理学的手法が必要であり、これに必要な形態解析手法を蛋白ベルで教授する。12コマ
- ④ 遺伝子異常が原因の内分泌疾患の解析をするための遺伝子解析法を教授する。12コマ

実習担当教員 佐藤温洋 青木一孝

教科書および参考書

内科学 第11版 矢崎義雄 総編集 朝倉書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、内科診療の技法や実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 内科診療の基本である診断、治療の立案を医療安全と医療倫理を遵守しながらできる。
- ② 問題点の発見と解決するための臨床研究の理論を理解し、医療安全と医療倫理を遵守しながら実践することができる。
- ③ 内分泌病理学解析法の理論を理解し実践することができる。
- ④ 遺伝子解析の理論を理解し、医療倫理を遵守しながら実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

内科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。医療安全と医療倫理は100%を求める。